

宿道（国頭方東海道）発掘調査
現場一般公開

平成20年（2008年）7月11日（金）～13日（日）

金武町教育委員会

1. 発掘調査に至る経緯

【平成18年】

- 10月 億首ダム予定地周辺の文化財分布調査で宿道（国頭方東海道）をはじめて確認。
- 10月～ 現地保存について、関係機関で検討協議。



【平成19年】

- 2月 宿道一般公開を実施。
- 7月 関係機関で協議を重ねた結果、現地保存はきわめて困難との結論に至る。
- 12月 宿道発掘調査の協定をダム事業者と締結。

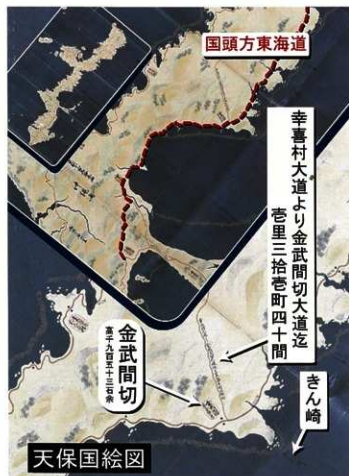
【平成20年】

- 4月～ 発掘調査に着手。

2. 金武の宿道

首里を起点とする琉球王府時代の宿道（すくみち）は、沖縄本島各地への幹線道路でした。

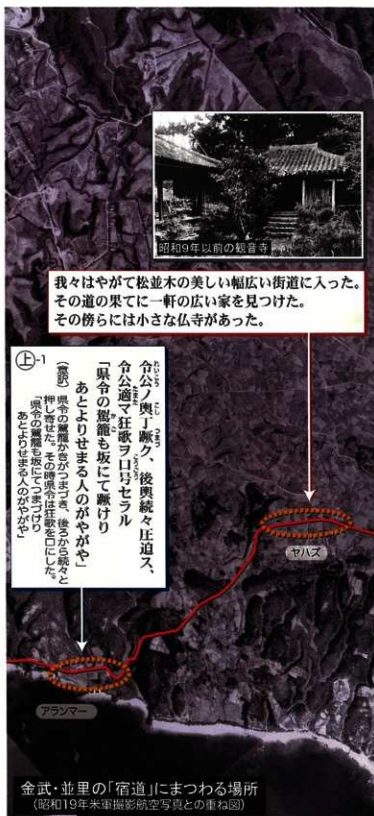
金武間切には、そのうちのひとつ「国頭方東海道」が通っていました。1838年頃に完成と伝わる天保国絵図にもそのルートが描かれています。



3. 文献等にもみる金武の宿道

金武間切と呼ばれていた頃の金武の宿道については、幕末に来琉したペリー艦隊一行らの記録や地域に伝わる歌謡、組踊の道行（みちゆき）にも登場します。

現在、発掘調査を行っている場所は、交通の難所でもあり、明治14年に県内に視察した県令 上杉茂憲の記録などの文献から当時の様子がよくうかがえます。



4. 宿道発掘調査の様子

どのような方法・どのように宿道の発掘調査が行われているのか、実際の写真とともにその様子を紹介します。



④ 遺構の掘り下げ

宿道が構築される前はどのような状態だったのか、断面の観察結果を踏まえながら、平面的に掘り下げていきます。



① 表土の掘り下げ・宿道の検出

宿道廃絶後～現在の間に積もった土を、ていねいに削がしながら、下に当時の路面が残っているのか慎重に確認していきます。



③ 遺跡の構造の確認

宿道の構造はどのような状態になっているか、いつ頃つくられたのかなどを調べるため、必要な箇所を溝状に掘り下げて、その壁面を観察します（断面の観察）。平面の時と同じように写真と図面で記録します。



② 写真や図面等による記録

当時の路面が確認されたら、写真撮影や正確な計測にもとづく実測図面の作成により、詳細に記録していきます。



5. 発掘調査の成果（これまでにわかった事）

H18年度の予備調査で確認した範囲



発掘調査区の平面図

今回の発掘調査で、これまでに明らかになった事柄を整理して紹介したいと思います。

(1) 宿道の下部構造について

平成18年度の予備調査で確認された宿道遺構について、溝状に断ち割って路面下および断面の観察を行いました（右と下の写真）。

自然の石灰岩岩盤を丁寧に加工・形を整え、岩盤の隙間など足りない部分に裏込めの細い礫（れき）を敷き詰めた後に切石で補うなど、宿道の構築過程をうかがうことができました。



(2) 宿道のつづきとみられる礫集中面

宿道がどれほどの範囲で・どのように残っているかを確認する事も今回調査の目的です。

前回確認された宿道の続きとみられる、礫（れき）が密に敷かれた礫集中面のひろがりを確認しました。

また礫集中面が上下に2枚重なる場所も確認され、時期の異なる可能性（下位が古い）も考えられます。



現在の航空写真に重ねると・・・



(3) 宿道以後の主要道の選り変わり

H18年度予備調査と今回の調査から、宿道以後の主要道の選り変わりをみる事ができました。



— ヨモ —

